



## 史跡

### 67. 永禅寺山古墳群

■指定年月日 昭和34年3月4日(1959) ■所在地 上戸町寺社 ■所有者 永禅寺・個人  
 ■寸法 1号墳 径20m 高1.2m 2号墳 径15m 高1.5m 3号墳 径10m 高0.5m  
 4号墳 径7m 高1.0m 5号墳 径22m 高2.5m 6号墳 径25m 高約3m

永禅寺山古墳群は“蟹寺伝説”で有名な永禅寺の裏、標高約45mの丘陵上にあり、円墳6基で構成される。

この内、発掘調査が行われたのは1号墳と2号墳であり、1号墳は昭和22年(1947)に珠洲郷土史研究会によって発掘調査が行われ、安山岩の板石を組み合わせた長さ約2mの組合式箱型石棺が発見された。棺内からは直刀2、剣2、鉄鏃30、胡籙金具1(以上、武具)、鉄斧1(農工具)、櫛1(装身具)のほか、1体分の人骨が出土した。胡籙とは、矢を携行するための古代の武具のことで、全国的にも稀少な遺物である。2号墳は昭和27年(1952)に九学会能登連合調査会によって調査され、1号墳

よりやや小型粗製の組合式箱型石棺が検出され、直刀1の他に鋤先1(農工具)が出土している。築造時期は、5世紀後半から6世紀初めとみられ、2号墳の方が若干、新しい。

永禅寺山古墳群と、竹中川を挟んで立地する大畠古墳群(市指定「金銅装双竜環頭大刀柄頭」出土)は、古墳時代の珠洲の有力豪族の墓であり、重要な遺跡である。